

週末清内人

取り組みに至る背景・事業の目的

2000年頃から清内路村で開催されたNICE（国際ワークキャンプセンター）を契機に活動をスタート。清内路は「自然が豊か」「温かい」「和む」「楽しい」といった参加者の声をもとに、NICEと村の有志で今後の方向性を話し合い、多くの若い人に清内路村の文化を体験し、村民との交流を通して双方に学びと元気を与えたいという認識で合意した。2005年夏から清内路村大桜の「出作りの家」を拠点としたスローライフを始め、2006年から村民の協力を得て「週末清内人」として、清内路の暮らし、遊び、食などをテーマに体験交流事業を行っている。



事業内容

村内スタッフ6名、村外スタッフ6名で運営委員会を組織。

各イベントごとにリーダーを置き、それぞれのリーダーが企画立案、実施計画、広報、参加募集、当日実施、振り返りを実施した。月2回程度の頻度で交流イベントを開催。

- 清内路の遊び体験（手作りソリ体験、沢ガニ掘り、溪流釣り、蜂ぼい）
- 清内路の食体験（山菜、ほう葉寿司、五平餅、味噌づくり）
- その他（野外音楽イベント『清内路 groove』）

なお、インターネット（mixi）に『週末清内人』コミュニティを立ち上げ、広報、活動レポートの発信や意見交換の場として活用（『週末清内人』参加者数2008年9月23日時点で235人）。メールマガジン（月1回）、イベント案内のチラシの村内全戸配布（月1回）などの情報提供も行った。



事業効果

村内の方々との交流、連携が進み、ブログなどで清内路村の魅力を広く発信してくれる方々も現れており、清内路村の魅力再発見、住んで楽しいと言える地域づくり、人づくりにつながっている。

- ・2007年度開催回数18回 参加者（村民を除く）…延べ261名、最大参加人数53名

- ・参加者がもたらす経済効果：一人4,000円（村内消費額）と仮定し $261 \times 4,000 = 1,044,000$ 円



工夫・苦労した点、課題、今後の取り組みなど

村内外のメンバーのスケジュール調整や、参加者の意識に合わせた企画づくりなどが課題。また、猪によって畑が荒らされたりして本来の活動が制約されることもあった。冬期間の宿泊場所については、H20.3に発足した農家民泊の会「ぬくもりの会」との連携強化を行うことにより確保することができた。今後、活動を継続的にさせるためには、参加者同士が「まず自分が清内路村で楽しむ」と言う意識を基本に置きつつ、「週末清内人」の活動イメージを共有しながら創り出していきたい。

【選定のポイント】

手作りによる食文化・自然体験の実施は、着実に交流人口の増加につながっている。

団体名	週末清内人運営委員会（清内路村）	事業タイプ	ソフト・ハード事業
連絡先	0265-46-2731（担当：原）	事業費	1,322,854円
		支援金額	597,000円